

## 令和8年度 今市中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

| 学年    |     | 生徒数<br>(人) | 平均正答率 (%) |      | 平均無解答率 (%) |      | 平均IRTスコア  |
|-------|-----|------------|-----------|------|------------|------|-----------|
| 実施月日  |     |            | 国語        | 数学   | 国語         | 数学   | (参考)英語3技能 |
| 3 年   | 学校  | 129        | 60        | 51   | 5.3        | 13.2 | 492       |
|       | 大阪市 | -          | 60        | 55   | 5.4        | 11.4 | 499       |
| 4月23日 | 全国  | -          | 63.9      | 57.0 | 4.9        | 10.4 | 499       |

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

# 調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

## 成果と課題

### ○全国学力・学習状況調査結果

＜国語の成果＞「話すこと・聞くこと」（60.0%）および「書くこと」（65.1%）の領域において、大阪市平均（話す聞く：59.9%、書く：64.2%）を上回った。無解答率は5.3%であり、大阪市平均（5.4%）と同水準となっている。

＜国語の課題・分析＞「読むこと」の領域（53.3%）は大阪市平均（56.3%）および全国平均（59.7%）を下回っており課題がみられる。全体として話す・聞く・書く表現力には強みがみられるものの、文章や資料を正確に読み解く読解力・把握力（読むこと）の育成に努める。

＜数学の成果＞「図形」領域（47.6%）については大阪市平均（46.2%）を上回る正答率を示している。

＜数学の課題・分析＞全体の平均正答率は51%となり、大阪市（55%）および全国（57.0%）を下回っている。特に「データの活用」領域（40.6%）は、大阪市（50.2%）および全国（53.5%）と比較して約10ポイント下回っており、大きな課題となっている。また、無解答率が13.2%と、大阪市（11.4%）や全国（10.4%）と比べて高く、最後まで諦めずに解き進める粘り強さや時間配分へのアプローチが課題である。

＜英語の成果＞IRTバンドの分布を見ると、上位バンドである「バンド4」（30.4%）の生徒割合が、大阪市（23.9%）や全国（23.9%）よりも約6.5ポイント高い割合を占めている。

＜英語英語の課題・分析＞平均IRTスコアは493（4技能）となり、大阪市（499）および全国（499）を6ポイント下回っている。下位レベルである「バンド1」（4.0%）の割合は抑えられているものの、中間層（バンド3：32.0%）から上位層への引き上げや、全体的なスコアの底上げが課題である。

## 今後に向けて

各教科の分析結果をふまえ、今後の学習指導において以下の重点的な取り組みを推進していく。

### 1. 読解力・情報整理能力の育成（国語・全教科共通）

国語の「読むこと」における課題解決に向け、長文や複合的な資料から正確に情報を読み取る指導を強化する。

読解力は他教科の設問理解にも直結するため、全教科で「文章・資料を正しく読み解く」場面を設ける。

### 2. 「データの活用」領域の強化と無解答対策（数学）

課題が顕著であった「データの活用」領域について、グラフや表の読み取り・考察を行う学習機会を増やしていく。

無解答率を改善するため、解法の手がかりを見つける方法をアドバイスし、途中で諦めず考え抜く姿勢を育てる。

### 3. 英語4技能の定着とCBT端末活用の習熟（英語）

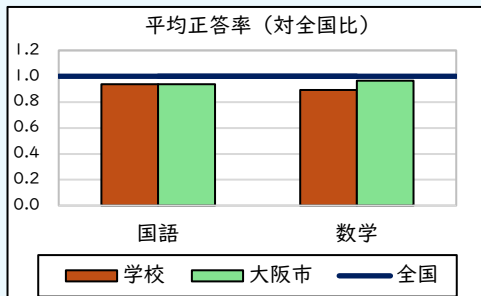
IRTバンド4の層を維持・発展させつつ、中間層（バンド3）の生徒の英語力向上に向けた個別の学習支援を充実させる。

ICT端末を用いたテスト形式（CBT）に日頃から慣れ親しみ、英語の4技能（特にパフォーマンス的な技能や瞬発的な回答力）を日常的に発揮できる授業づくりを推進する。

# 令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

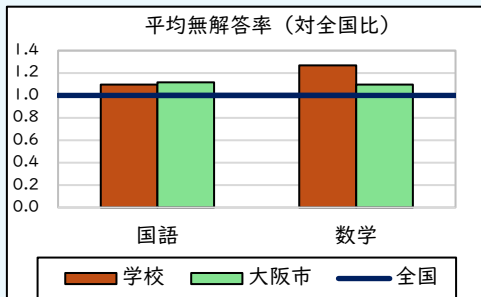
## 平均正答率（％）

|     | 国語   | 数学   |
|-----|------|------|
| 学校  | 60   | 51   |
| 大阪市 | 60   | 55   |
| 全国  | 63.9 | 57.0 |



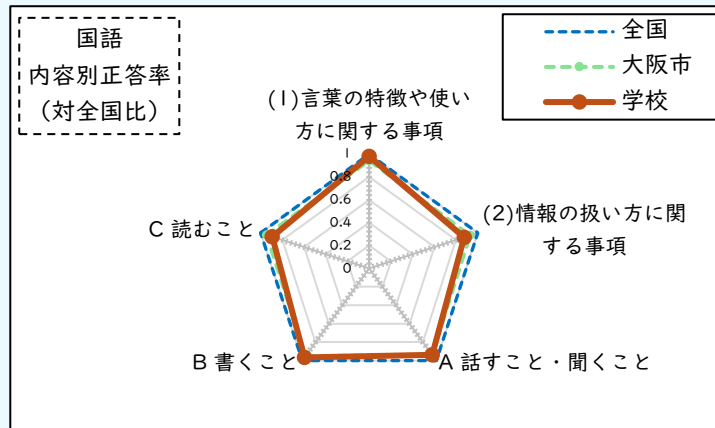
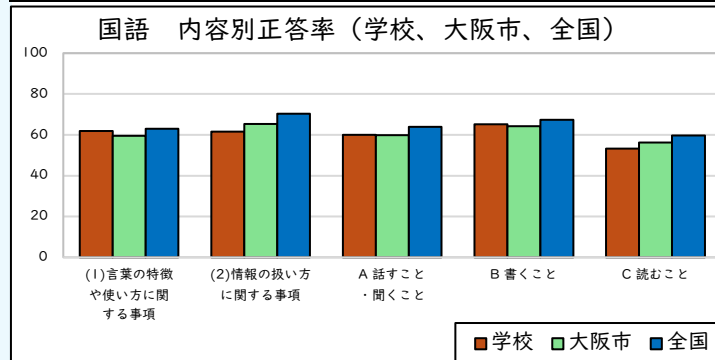
## 平均無解答率（％）

|     | 国語  | 数学   |
|-----|-----|------|
| 学校  | 5.3 | 13.2 |
| 大阪市 | 5.4 | 11.4 |
| 全国  | 4.9 | 10.4 |



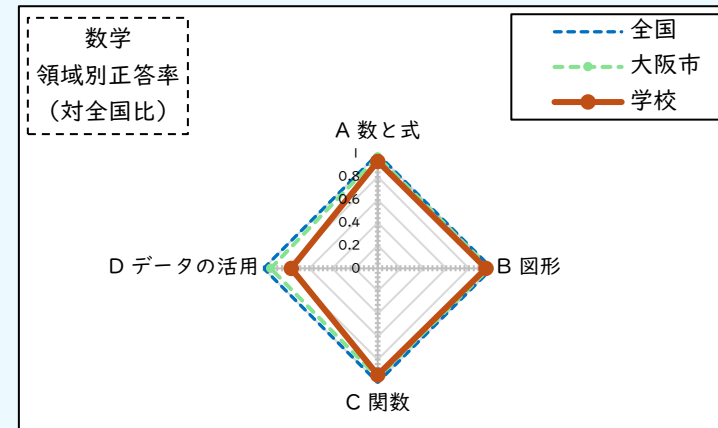
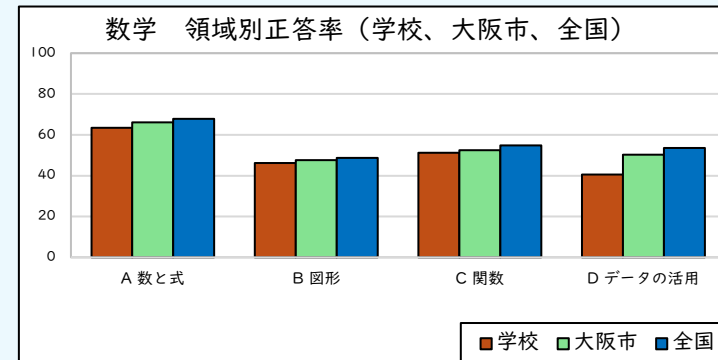
## 【国語】内容別正答率

| 学習指導要領の内容           | 対象問題数（問） | 平均正答率（％） |      |      |
|---------------------|----------|----------|------|------|
|                     |          | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| (1)言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 5        | 61.8     | 59.5 | 63.0 |
| (2)情報の扱い方にに関する事項    | 1        | 61.6     | 65.3 | 70.4 |
| (3)我が国の言語文化に関する事項   | 0        | -        | -    | -    |
| A 話すこと・聞くこと         | 3        | 60.0     | 59.9 | 63.9 |
| B 書くこと              | 3        | 65.1     | 64.2 | 67.4 |
| C 読むこと              | 3        | 53.3     | 56.3 | 59.7 |



## 【数学】領域別正答率

| 学習指導要領の領域 | 対象問題数（問） | 平均正答率（％） |      |      |
|-----------|----------|----------|------|------|
|           |          | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| A 数と式     | 5        | 63.5     | 66.1 | 67.8 |
| B 図形      | 4        | 46.2     | 47.6 | 48.7 |
| C 関数      | 3        | 51.2     | 52.5 | 54.8 |
| D データの活用  | 4        | 40.6     | 50.2 | 53.5 |



# 令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

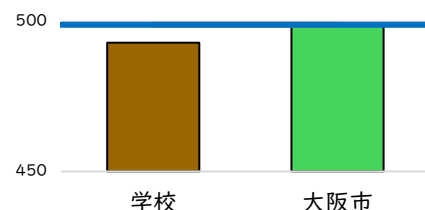
## 英語 平均IRTスコア

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校  | 493 (492) |
| 大阪市 | 499 (499) |
| 全国  | 499 (499) |

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ ( ) 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



## 【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

## 【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

## 【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

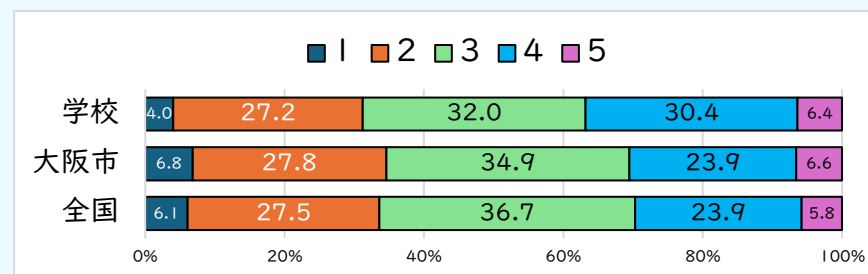
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

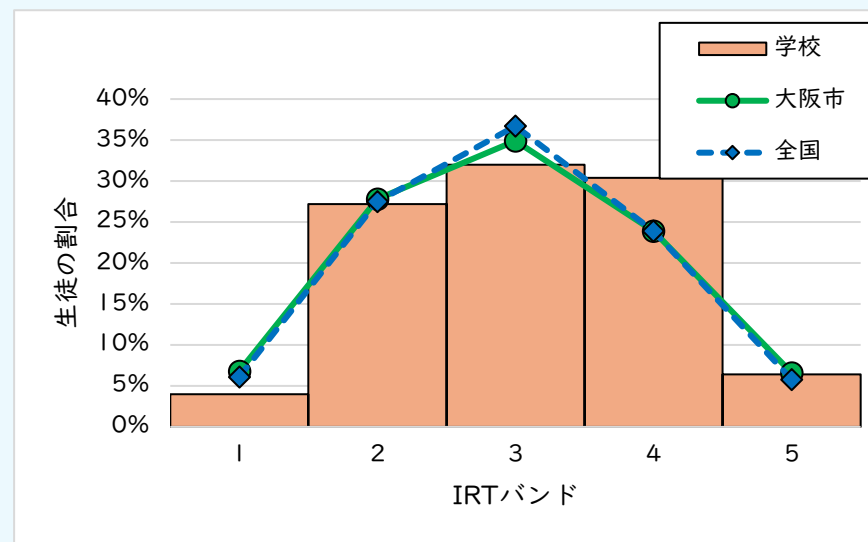
|     | 1   | 2    | 3    | 4    | 5   |
|-----|-----|------|------|------|-----|
| 学校  | 4.0 | 27.2 | 32.0 | 30.4 | 6.4 |
| 大阪市 | 6.8 | 27.8 | 34.9 | 23.9 | 6.6 |
| 全国  | 6.1 | 27.5 | 36.7 | 23.9 | 5.8 |

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



# 生徒質問調査より

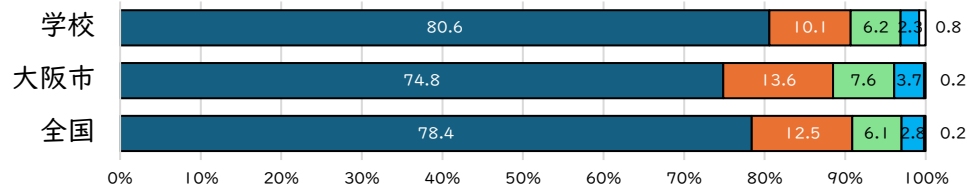
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

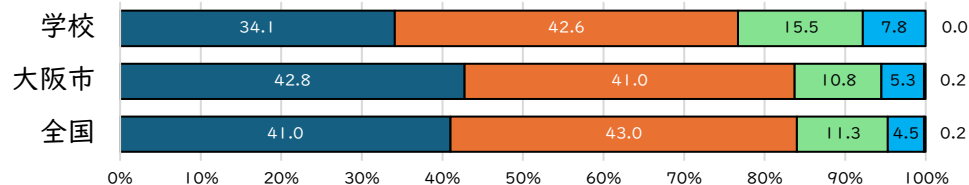
質問事項

(1) 朝食を毎日食べていますか



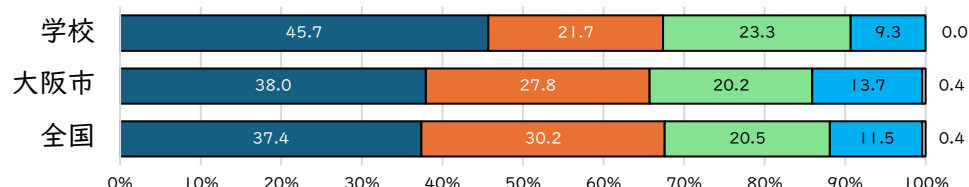
1 している  
2 どちらかといえば、している  
3 あまりしていない  
4 全くしていない

(8) 自分には、よいところがあると思いますか



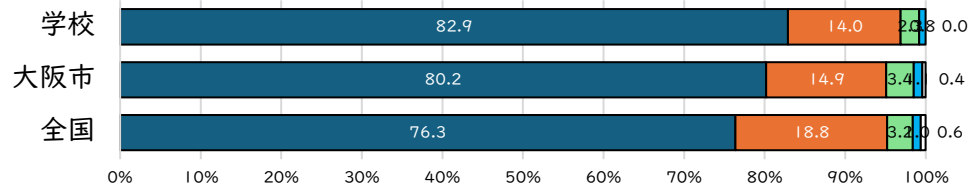
1 当てはまる  
2 どちらかといえば、当てはまる  
3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



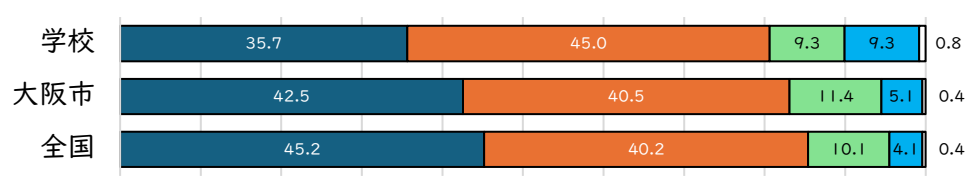
1 当てはまる  
2 どちらかといえば、当てはまる  
3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない

(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



1 当てはまる  
2 どちらかといえば、当てはまる  
3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない

(15) 学校に行くのは楽しいと思いますか



1 当てはまる  
2 どちらかといえば、当てはまる  
3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない

# 学校質問調査より

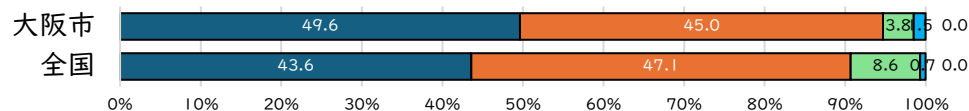
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号 質問事項

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

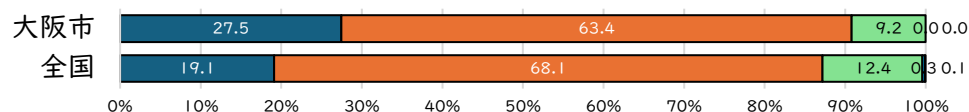


1 そう思う  
2 どちらかといえば、そう思う  
3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない

(26)

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

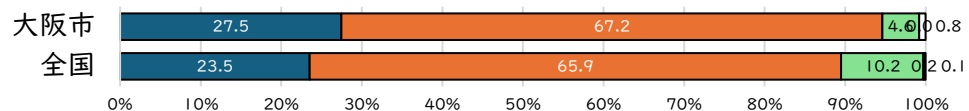


1 そう思う  
2 どちらかといえば、そう思う  
3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない

(28)

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

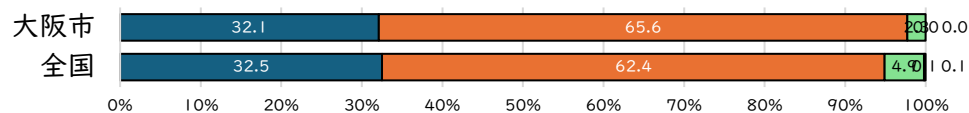


1 そう思う  
2 どちらかといえば、そう思う  
3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない

(29)

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

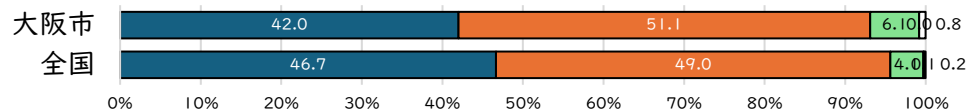


1 そう思う  
2 どちらかといえば、そう思う  
3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない

(51)

調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして生徒に筋道を立てて説明させるような

【学校の回答】 1 よく行った



1 よく行った  
2 どちらかといえば、行った  
3 あまり行わなかった  
4 全く行わなかった